北海道バプテスト連合ニュース
全道にキリストの光を！

2023年10月発行 №126
発行者 福田 雅祥 編集者 澤田 貢希
発行所 041-0806 函館市美原2丁目41番8号
函館美原キリスト教会内
http://hokkaidobap.jimbo.com pw: jbc1947

【 巻頭言 】～ 一喜一憂せずに ～

連合会長 福田（ふくだ） 雅祥（まさよし）
（函館美原キリスト教会）

「イサクはそこから移ってまた一つの井戸を掘ったが、彼らはこれを争わなかったので、その名をレホボテと名づけて言った、『いま主がわれわれの場所を広げられたから、われわれはこの地にふえるであろう』」。
（創世記２６章２２節／口語訳）

「塞翁が馬」という言葉があります。「人生に起こる出来事の幸不幸は予測し難い」という意味で、中国の故事に由来します。ある老人（塞翁）の馬が逃げ出してしまいました。村人は「運が悪かったなあ」と言いましたが、老人は冷静でした。やがて、いなくなった馬は、十二頭の野生馬を引き連れて帰ってきます。村人は「なんて幸運なんだ」と言いましが、老人は相変わらず冷静でした。しばらくして老人の息子が、その馬の中の一頭に乗って落ち、怪我をしてしまいます。村人は「不幸だったなあ」と言いましたが、老人はやはり冷静でした。数日して村に軍隊がやって来て、若者を徴兵して行きました。けれども、老人の息子は怪我をしていたため徴兵を免れたのです。このような故事から、「塞翁が馬」という言葉が生まれました。

５月に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが五類に移行してから、社会の動きは大きく変わりました。それまでの失われた数年を取り戻すかのように、人の動きが活発になりました。一方で、感染者数もこのところ増えてきました。

これは私見ですが、（私共の）教会も、また、連合もコロナに翻弄されたこの数年の影響が、今になって様々なところに溢れ出て来ているように思います。もちろん、悪い影響ばかりではないのでしょうが、大きな変化が起こっているように思います。しかし、そのような時だからこそ、万事塞翁が馬、目の前のことに一喜一憂せずに歩んでいきたいと思います。

イサクは、井戸を掘って水が出たかと思えば、それをペリシテ人に奪われ、また別の場所に移動しては、井戸を掘るということを何度も繰り返さなければなりませんでした。けれども、イサクは、ペリシテ人と力で対決することをせず、ひたすら井戸を掘り続けました。

それは、単にイサクが温和で忍耐強かったからではないと思います。彼には、「神様が一番良いところに導いてくださる」という信仰があったのだと思います。だからこそ、彼は「レホボテ」に導かれたのです。

この未知のポストコロナの時代にあって、私たちも、目の前のことに一喜一憂せず、神様が最善に導いてくださるという信仰をもって、連合の歩みを進めていきたいと思います。どうぞ連合の働きにますますご協力ください。

協力伝道TOPIC　教会間交流レポート（釧路～帯広）～舛田栄一神学生の派遣～

報告者：西島啓喜（帯広教会）

帯広教会では毎年、諸教会同様、神学校週間に工夫をしてアピールの時を持っています。今年はどうしようか？と話し合ったときに、釧路教会で舛田栄一神学生（東京バプテスト神学校）が実習していることから、彼をお呼びして礼拝を守っては？というアイディアが出てきました。釧路教会と舛田神学生に打診をしたところ快く引き受けてくださり、7 月 9 日に「神学校週間を覚える礼拝」ということで実現しました。連合からは「教会間協力」の制度を使っては？というアドバイスをいただいたのでありがたく利用させていただきました。心から感謝いたします。

ところで、舛田神学生をお呼びしたのには別の理由もあります。現在、連盟では牧師のなり手が不足し将来が危ぶまれる状況です。従来、若い教会員を中心に牧師への志を奨励してきたのですが、そのスキームが成り立たなくなってきたと感じます。仮に若い人が神学校に行っても、『「献身」していないと思われる人も入ってきている』との嘆きも神学校関係者から聞かれます。連盟総会で議決された「これからの伝道者養成の基本理念」で謳われているのは、「献身者」＝「牧師・神学生」という従来の考えから、「すべての信徒が伝道者である」という意識に変えていこうということです。舛田神学生は社会人としての責務を果たしながら 13 年にわたり神学校で学び、定年退職して最後の実習、卒論の仕上げに入っています。これからの牧師のあり方を考える上でよい例になると思っています。すべての信徒は「いつでも、誰でも」召されており、その中から教会が祈り牧師を立てていくという方向に意識が変えられていくことを願います。

連合活動TOPIC　2023 年度教役者会牧師セミナー報告

報告者：本多啓示（函館教会・幹事長）

今年度も、連合教役者会牧師セミナーが、9 月 5 日～6 日（火～水　1 泊2日）の日程で苫小牧教会会堂をお借りして対面＆ZOOM で開催（参加者:1日目　対面 9 名・ZOOM 4 名、2 日目　対面 10 名）。テーマは「地域の教会～わたしたちに出来ること」。連合内の教会で取り組んでいる地域活動に焦点をあて以下の 4 教会における取り組み（5 日:①札幌新生「カフェ・オリーブの取り組み」三浦皇主郎　牧師インターン、②札幌「お弁当プロジェクト」西本詩生牧師。6 日:③帯広　地域開放プログラム「学習スペース開放（学生向け）」・「ふまねっと（高齢者向け）」川内裕子牧師、④釧路「厚岸礼拝・弟子屈礼拝・釧路の英語礼拝・分かち合いプロジェクト・ユーチューブ配信」奥村敏夫牧師。）を、発題としてご紹介頂き、質疑応答と共に分かち合う機会を持つことが出来ました。

一日目の発題後に行われた教役者会では、議題に関する協議に時間を要してしまい、プログラム時間の延長、順番、内容等に修正が生じましたが、参加者のご協力のもと無事に終えることが出来ました。開会礼拝（説教者　平岸教会　全.ホウショップ牧師　題「主に委ねよ」、聖書箇所:詩編 37 編 5 節　口語訳、讃美歌:新生 566　主に任せよ　）、閉会礼拝（説教者　旭川教会　田森茂基牧師　題「混乱という祝福」、聖書個所:創世記 11 章 1-9 節　新共同訳、讃美歌:480　この世の重荷から）と、それぞれ御言葉と祈りと賛美によって始まり、新たにされ、それぞれの働きの場所へと派遣される恵みに預かりました（苫小牧市海の駅内の食堂で昼食後、解散。）。連合諸教会の皆様のお祈りとご支援に心から感謝。主に栄光をお帰し致します。

連合活動TOPIC　北海道バプテスト連合 青少年春の修養会２０２２ ＆青少年の集い“みんなで夏キャンしちゃおう！”活動報告

報告者：田森茂基・澤田貢希（HYP 委員会）

【北海道バプテスト連合　青少年春の修養会 2022　報告】

3 月 28 日(火)～30 日(木)、全道の教会から青少年が集められ、「国立日高青少年自然の家」にて青少年春の修養会 2022 が開かれました。今回の春の修養会は 4 年ぶりとなる対面＆連泊での開催となりました。テーマ聖句は詩編 133 編 1～3 節で、札幌バプテスト教会牧師の西本詩生先生により“神様から与えられた仲間”というテーマでのメッセージがありました。

参加者は青少年が 15 名、スタッフ・引率者が 7 名の計 22 名でした。4 年ぶりの対面開催・青少年のうちほとんどの参加者が初参加ということもあり、以前とは一風変わった雰囲気でしたが、新たな出会いと再会という喜びが与えられました。メッセージを聞いて分かち合い、踊りながら賛美を歌い、ゲームで遊び、火おこしや創作活動で交流を深めました。また、2 日目の夜にはキャンドルサービスを行い、お互いに言葉を交わしました。

最終日には仲間との別れを惜しむ姿もあり、この修養会を通して一人一人が神様から仲間を与えられたのだと思います。今後も、各教会の青少年が集い、神様の恵みを分かち合う機会として、様々な活動を計画・実施していきたいと考えています。

（HYP 委員　澤田　貢希　札幌教会）

【青少年の集い 「みんなで夏キャンしちゃおう！」 報告】

私たちは、新型コロナウイルスが世界的に蔓延した事により、約3年間、他者との交流を控えることを選んできました。また、それと同時期に、日本バプテスト連盟の機構改革が進められ、今年度から「青少年伝道室」が閉室となったことで、かつては夏になると開催されていた、「全国少年少女大会」及び「隣人に出会う旅」の開催も白紙の状態となりました。そのような現状を踏まえ、HYP委員会では、2023 年 8 月 4 日（金）～5 日（土）の日程で、「日高沙流側オートキャンプ場」を会場とする「みんなで夏キャンしちゃおう」を計画しました。

計画に際して私たちが願ったのは、心身の成長期にある若者たちに、同世代の隣人と出会い、互いの成長を促すような時間と空間を提供する事と、その場に伴う事でした。これまで夏のプログラムを実施したことが殆どなく、0からの準備となりましたが、6教会から24名の参加者を得て（スタッフ含む）、開催することが出来ました。

当日は、あいにくの不安定な天候となりましたが、そのような環境も含めて、参加した若者たちと共有しながら、互いに触れ合える距離感で非日常の暮らしを満喫しました。その経験は、彼らの成長に資する有意義な出来事であったと振り返ります。祈りに覚え、支援してくださった連合諸教会の皆様と、全てを護り、導いてくださった主に、心から感謝します。（HYP 委員長　田森　茂基　旭川教会）

連合活動TOPIC　第 14 回信徒セミナー報告
「体験！神学校～じっくり学ぶ新約聖書～スーパーマン？敗北者？
―いやしと十字架のイエス様」

報告者：橋本 修一（北海道バプテスト研修センター運営委員会 協力委員）

研修センター主催の第 14 回信徒セミナーは苫小牧教会を会場に 7 月 29 日（土）10 時 30 分から 15 時まで昨年に引き続き福岡の地より須藤伊知郎先生をお招きして行われました。会場での参加は 15 名、オンラインでの参加は 26 名でした。大変暑い中ではありましたが須藤先生の大変熱のこもった講義に皆さんとても真剣に取り組まれていたように思います。以下はお寄せ下さいました参加者のアンケートを記載しています。是非共有していただければと思います。

・「ゲラサの悪霊憑きの癒し」は今まで理解し難かったが、今回の時代背景、社会情勢を踏まえた説明でよく理解できた。奇跡物語には抵抗感があるが学べば深い意味があることを知り学ぶことの大切さを知った。

・学問として聖書を研究されている方のお話しを聞く機会を与えていただき感謝です。

・とても興味深く聴講させていただいた。

・マルコ福音書についてローマ軍のいるかと猪の印とレギオンの癒しがよく理解できた。

・Zoom と違って先生を間近にして学べた事は私にはより理解できて、より考える力をいただきました。

・自分だけで聖書を読んで理解していた事と違う観点でのお話しに目が開きました。

・イエス様の福音に嬉しく涙が出そうになりました。

・午前中のイエスに触った女性のお話し、又、質問に対する答えで、いつからイエスは神の子として私たちに贈って下さった方であることに気づいていく、発見していくくだりは、なるほどと思わされました。

【連合への諸送金のご案内】　※取扱いはすべて「ゆうちょ銀行」となっています。

◎ **協力伝道献金**　＜名義・記号番号＞　北海道バプテスト連合　１９０００―１７９２２９１１

◎ **災害対策募金**　＜名義・記号番号＞　北海道連合災害対策委員会　１９０００―２１３１６６５１

◎ **教役者会献金**　＜名義・記号番号＞　北海道バプテスト連合教役者会　１９０６０―５１７２２７８１